

みんなの議会

2021年5月
第85号



おはようございます

第1回定例会 2頁

- 令和2年度一般会計補正予算
事業中止で予算減額になったものなど

令和3年臨時会 2頁

シリーズ検証 3頁

第4弾

- 一般質問のその後を追う
質問者 鵜野議員
「冬期間の大規模停電の備えは」

一般質問 4~7頁



長野議員が「売買ニーズに応える空き家対策」について質問したほか、8名の議員が一般質問を行いました。

常任委員会報告 8・9頁

予算等審査特別委員会 10・11頁

令和3年度一般会計49億1000万円および特別会計18億3604万円の予算案を審議し承認しました。

令和3年 第1回 定例会

3月11～18日

3月11日から3月18日まで令和3年第1回定例会が開催されました。

上程された主な議案

総務民教建設常任委員会の大沼委員長が「住民と築く防災について」の所管事務調査報告及び、「地球環境対策について」の中間報告を行いました。

議会改革特別委員会の鶴野委員長は調査付託案件についての中間報告を行いました。

(詳細8～9ページ)

◎補正予算

令和2年度一般会計補正予算の総額に5633万円を追加し、総額5億7311万円としました。

今回の補正は、3月ということで各事業の執行残額と、新型コロナウイルス感染症の影響などで中止となった事業費を減額しました。

「歳出の主な内容」 事業中止による減額

- ・輝け雪の町フェスタ事業補助金・にぎわい活性化イベント委託料ほか

- ・移住定住応援費 320万円減

- ・各種移住フェアなどの中止によるものなど。

- ・学校教育振興授業事業(小中学校での文化講演など)

- ・小矢部市青少年交流事業交付金 108万円減

- ・事業中止により、これまでの交流を記録したDVDを作製した残額。

新規及び増額となったもの

- ・沼田線運行事業者(空知中央バス)緊急支援金

60万円

- ・新型コロナウイルス稲作経営継続対策水稲種子助成事業 1222万円
- ・町道除雪委託料 1800万円増

記録的な大雪の影響によるもの。

- ・国民健康保険特別会計繰り出し金 541万円増
- ・特別養護老人ホーム(旭寿園)特別会計繰り出し金 2900万円増



旭寿園でのデザートバイキング

◎令和3年度一般会計 特別会計予算

大沼議員を委員長、伊藤議員を副委員長として予算等審査特別委員会を設置し、令和3年度会計予算案9件、予算に関する条例3件の審査を付託しました。

(詳細10～11ページ)

第1回臨時会

令和3年1月13日

◎沼田町柔剣道場条例を 廃止する条例について

建物を現状のまま民間に譲渡し、工場として利用するため。

◎令和2年度一般会計補 正予算

- ・スコールセンター管理費 168万円増

ほたる館の大浴場修繕に伴う施設管理委託料の増。

- ・新型コロナウイルス対策費 186万円

ワクチン接種券の発行などに伴う事務経費と委託料。

◎特別養護老人ホーム(旭 寿園)特別会計補正予算

- ・消耗品費 61万円増

玄関の洗面台設置工事等の残額を組み替え、手袋やマスクなど消耗品を購入。

◎監査委員の選任について

金子幸保氏の監査委員任期満了に伴い、中村保夫氏の監査委員選任に同意しました。

第2回臨時会

令和3年1月26日

◎令和2年度一般会計補 正予算

- ・スコールセンター管理費 124万円増

ほたる館のタイヤシヨベル故障によるリース料。

- ・新型コロナウイルスワクチン接種委託料 94万円

- ・新型コロナウイルス緊急経済対策支援金 80万円増

依然として影響を受けている町内商工業者への支援。

表紙の写真



新学期、ワクワク登校する沼田っ子と「春の交通安全運動街頭啓発活動」の1コマです。

傍聴席の生の声

「自然学校事業」を通して様々なイベントを計画しているようです。コロナ禍ではあるが事業が活性化することを期待します。(60代・男性)



今回の定例議会の傍聴者は、8名でした。

みなさまの傍聴をお待ちしています。

シリーズ検証

第4弾

一般質問のその後を追う

議員が定例会ごとに行う一般質問は、その後どうなったのか。実現したものだけでなく、途上のものは実現の可能性を探ります。

シリーズ第4弾は平成30年12月の定例会における金平町長への鵜野議員の質問です。



質問する鵜野議員

問 冬期間の大規模停電の備えは

鵜野 範之

胆振東部地震のブラックアウトを受けて沼田町の公共施設、避難所、養護老人ホーム施設の自家発電機の設置状況、冬期間の対策と今後の対策を問う。

答 自家発電は役場庁舎のみである。

★その後の対応

震災発生後の令和元年度から2ヵ年かけ、町内唯一の医療機関である沼田厚生クリニック、指定避難所の健康福祉総合センター（ふれあい）・生涯学習センター（ゆめっくる）、福祉避難所の和風園・旭寿園の計5施設に非常用発電設備が配置された。

冬期間においても電源が確保され、電気式ストーブも使用可能なことから、避難所としての最低限の機能が確保された。

町議会のホームページを ご利用ください

過去の議会広報誌や、議事録が見られます。

「沼田町議会」で検索！

スマートフォンはこちらから➔



町長への一般質問

問 「オール沼田」を浸透させるには

答 小さな会合なども取り入れたい



伊藤 淳
議員

問 町長の政策では、子供たちが誇りを持てるふるさと創造に向けて「オール沼田」による町民とつくるまちづくりを宣言されている。

町長の思い、町政の現状や課題を町民に知ってもらう、参画してもらうことが政策実現の第一歩と考えるので、町民の町政に対する関心の高さについてどのように感じているのか聞きたい。

また、ふるさと創造懇談会や各種事業での民意を募集する場での参加者が少ないように感じる。現在進めている自然体験プロジェクト

トやJR留萌本線の存続に向けた取り組みについては、関係者や賛同していただける町民に応援してもらえよう働きかけることが必要だと考えますが、改善する取り組みが出来ないか聞きたい。

町長は、町政の現状や課題を町民に知ってもらう、参画してもらうことが政策実現の第一歩と考えるので、町民の町政に対する関心の高さについてどのように感じているのか聞きたい。



ふるさと創造懇談会(ゆめつくる会場)



ふるさと創造懇談会は、昨年はコロナ禍でしたが、一昨年よりも多くの町民に参加していただきました。しかし、

ふるさと創造懇談会は、昨年はコロナ禍でしたが、一昨年よりも多くの町民に参加していただきました。しかし、

人数的に評価してもらえないものではないと思えますので、興味を持ってもらえるよう周知や開催の仕方を工夫し、小さな会合なども取り入れ情報収集を図ります。人口減少する中、将来的

に行政だけではなく、町民の協力を仰ぎながら「オール沼田」を進めるべく、皆さんが参加して、応援していただけるようにいろいろな場を設けて広めていきます。

問 適切な基金残高と財政運営は

答 将来に負担を残さないよう取り組み



高田 勲
議員

問 令和元年度以降、基金の残高が減少し、この2年間で5億円ほど減少する予算であるが、その理由は何か聞きたい。

2点目に、ふるさと納税額が3億円の予算に対し、半分に満たない現状で、令和2年度末において、基金の見込み残高を達成できるのか聞きたい。

また、基金残高と起債残高はコントロールしながら財政運営を行うことが望ま

しいが、町長の考えを聞きたい。

観光客の入込数の落ち込みが厳しい状況であるが、様々なアプローチにより関係人口を増やし、ふるさと納税をしっかりと集めることが基金の目減りを防ぐと考

地方交付税が減少傾向にあることが主な要因ですが、事業を実施する上で補助金などを活用し、町からの持ち出し

が少なくなるよう努めています。ふるさと納税の3億円の目標は厳しい状況ですが、基金全体での達成は大丈夫だと考えています。財政運

営にあつては、借入を少なくし、公債費の繰上げ償還を実施し、将来に負担を残さないよう事業の見直しや効率化に取り組み対策を講じていきます。

ふるさと納税については、前年を下回る状況ですが、減少した状況の分析を行い、納税額を増やすよう努力します。

高田議員のそのほかの質問

問 沼田町には「食」の観光イベントが必要だ

答 「健康と食と交流」をテーマに新たな事業を行いたい

問 町独自の補聴器購入助成を

答 現状を調査した上で助成方法を検討する



篠原 暁
議員

を受けた人に限定されていて加齢性の難聴者には助成がないため、高額商品である補聴器購入に対する助成制度の創設を望む声がある。町長はこれをどう受け止めるのか。

問 乗り合いタクシーの制度拡充を

答 主要施設を利用する交通弱者への配慮を優先する

手帳所有者のうち、聴覚障害の認定者数は把握していません。統計から予測すると、多数の町民が加齢性難聴で悩んでいると判断できます。今後、補聴器使用の対象者数の把握や、現状の障害

者手帳を所持している方の補助基準額、あるいは非課税世帯の補助上限額、その他、実施している市町村の事例を参考としながら、補聴器の助成方法について検討します。

導入しました。

実証実験の結果から判断して、主要施設を利用する交通弱者の生活に配慮した運行を優先しています。時間や行き先を自由にしたい場合は、通常の民間ハイヤーをご利用いただきたい。

他にも公共交通として町営バスがあり、JRや民間バスなどの交通機関にも利用促進や事業継続に向けた支援を行うことで、長寿日本一をめざしているのをご理解ください。

問 高齢になると耳が遠くなる「加齢性難聴」

が日常生活を不便にするだけでなく、ひきこもりなど社会活動の減少やコミュニケーション不足を招き、やがてはうつ病や認知症の原因にもなるということが指摘されているので、以下の点について町長の見解を問う。

まず、加齢性難聴がうつ病や認知症の危険因子であるとされていることに対する町長の所見を聞きたい。次に、沼田町内の高齢者における難聴の実態についてどのように把握をされているか。

現在は、国による補聴器購入者への助成制度の対象は、身体障害者手帳の交付



加齢によって耳が聞こえづらくなり、社会活動の参加に消極的になる。そして家に閉じこもりがちになることが認知症になる要因の一つとして考えています。

町内の高齢者の現状については具体的な調査はできていませんが、身体障害者

現在沼田町で実施している乗り合いタクシーは、予約制で利用できる時間と目的の地が限定されている。近隣の町では、普通のタクシー利用に対しチケットによる補助を実施しているところがある。

問

高齢になると病院へ行くにも足が必要で、つい外出がおっくうになる。友だちの家に遊びに行くのもおっくうになり、会話が減って孤立してしまう。



上野 敏夫
議員

乗り合いタクシーをもっと自由で使いやすい制度にし、高齢者に優しい町にするので長寿日本一をめざす考えはないか。



乗り合いタクシーは、交通弱者の生活を支えるために運行しています。当初予約制

乗回バスの実証実験を行いました。乗車している時間や便数などに課題があったため、利便性の向上を図る目的から乗り合いタクシーを



乗り合いタクシーで厚生クリニックに通院する町民

問 町から「ほたる」はいなくなるのか
答 町の宝として絶対に残していく



宏 元 議員
久 保 議

「ほたる研究会」の今後についてと飼育担当を変更する急務を要するが、準備はできているのか。

2点目に、観光協会の総会に、ほたるや化石の代表が参加していない。結びつきと発信に取り組むべきではないか。

3点目に、ほたるこそ、新事業「自然体験学校」のシンボルにふさわしいのでは。

問 沼田町の「ほたる研究会」は今年で記念すべき30周年となる。本来であれば記念式典や記念誌を発行すべきだが、むしろ解散に向かっている。

ほたるは沼田町にとって、観光「他地域との差別化」、産業「クリーン農業の根拠」、郷土愛「シンボル」などの大きな役割を果たしてきた。ほたるがない町に、「ほたる館」や「コーミ北のほ



ほたるを育てた(故)浅野常蔵さんと現会長の野道夫さん

沼田からほたるがいなくなることには阻止しなければなりません。

まず、「ほたる研究会」の今後と、研究員から後継者への技術指導を含め、協議して参ります。

2点目に観光協会は各団



沼田からほたるがいなくなること

「ほたる研究会」の今後と、研究員から後継者への技術指導を含め、協議して参ります。

2点目に観光協会は各団

体と連携しながら情報発信をすることが重要と考えます。

3点目に「自然体験学校」、「あんどん」、「化石」が、十分連携することも必要と思います。ただワーケーションに特化するのではなく、

「あんどん」、「化石」が、十分連携することも必要と思います。ただワーケーションに特化するのではなく、

ほろしんの森を生かすためには、ほたるの存在は重要です。今年、ほたるが自然ふ化する状況を観察します。もし、自然ふ化のみで維持できるのであれば、繁殖などの作業は行わない場合もあります。

問 売買ニーズに応える空き家対策を
答 移住定住応援室で対応する



敏 時 議員
長 野 議

一方、コロナ禍の時代、住みたい田舎ナンバーワン沼田町の手ごろな物件を買いたい町外、道外のニーズも多数あると考える。

これらの「住宅後継者」を引っ張り込むことが両者の売買ニーズに応えることになる。

そのために、家の処分に不安を持っている方へ、民間の専門家によるアドバイザーの場の設定が必要であり、そのような「住宅の目」相

問 前回の質問以後、「調整中」だった空き家バンクは、大きく改善された、職員の努力に敬意を表したい。

私の独自アンケート結果では、持ち家に住んでいる方が多く、「緊急ではないが家を売りたい」と考えている方が半数以上いる。

高齢者世帯などいくつかは売りたいというニーズがある。

そのために、家の処分に不安を持っている方へ、民間の専門家によるアドバイザーの場の設定が必要であり、そのような「住宅の目」相

談会の開催を提案する。町長の考えを聞きたい。



民間の力については、町内の「司法書士」の力を借りて書類の手続き等を進めています。専門家の必要性もあるかもしれませんが、移住定住応援室(住民生活課)が、まさに対応しています。

毎週土曜日、「移住交流ハウス」(西一町内)でも、相談の窓口を設けています。併せて、北海道空き家バンクと連携して移住者を確保する努力をしていきます。

毎週土曜日、「移住交流ハウス」(西一町内)でも、相談の窓口を設けています。併せて、北海道空き家バンクと連携して移住者を確保する努力をしていきます。



毎週土曜8:45~17:00
相談窓口の
移住交流ハウス

長野議員のそのほかの質問

問 コロナ以後、人を呼び込む大逆転の観光作戦を

答 ツアー、バックなど視野に入れて関係人口拡大を図る

問 コロナ禍での自死予防対策は

答 寄り添った態勢づくりを検討していく



大沼 恒雄
議員

自死対策関係を検索しても情報が出てこない。更なる今の自殺・自死防止と町民に優しい経済対策について聞きたい。

問 厚生労働省の統計で、令和2年の自殺者が2万919人と発表された。特に女性の自死の増加や、コロナ禍によるストレスが心身のバランスを崩している

と見られ、感染症による死者だけでなく、経済的なことから精神的に追い込まれた末の死の増加が危惧されている。

自死防止策を

少しでも講じないといけないし、経済的な支援としての給付金は命を救う緩衝材になっていた。

沼田町で自殺対策基本計画は出来ているのにホームページで



北海道いのちの電話

お知らせ版についても随時発行し、相談窓口の総合的な情報提供、いのちの電話、保健福祉課への直接の相談など、寄り添った態勢づくりをとっています。



町のホームページを確認して対応しています。自死予防対策については保健福祉課を窓口

に相談支援にあたっています。生活、産業、教育、医療機関など様々な分野と連携しながら支援が必要な方を見落とさないような対応に努めています。

コロナウイルス感染症に

教育長への一般質問

長引くコロナ禍では、経済的な支援策に加え、安心して生活が出来るように検討して行きたいと思っています。

仕事がなくなり困っている方々への対応では各課で連携して取り組みをして、より広く情報発信ができるように、内部で検討します。

問 臨時休校でのタブレット活用を

答 今後の活用方法を検討したい



畑地 誉
議員

校が予想される場合は前日にタブレットを持ち帰り、次の日に備えることは出来ないのか聞きたい。

また、経済誌で全国公立学校の情報化ランキングが掲載され、沼田町は小学校で81位、中学校484位と公表されていた。

インフラ整備後の情報機器活用を含め、教育委員会はそのように認識しているのか聞きたい。

教育長

臨時休校等の対応マニュアルがあり、悪天候での臨時休校判断は、天気予報での警報発令がもとになりま

す。2月16日は全道的に荒れるという予想がされていましたが、警報が出たのが当日の朝3時であり、前日の段階での休校は決めていませんでした。

タブレットを持って帰宅させることについては、コロナ感染症のように長期学級閉鎖時に、安否確認や家庭学習の指導もできるので、積極的に活用することもありますが、急な臨時休校の際には対応が困難だったので今後の検討とします。

沼田小中学校は全国公立学校情報化ランキングでの評価は高く、町内に光ケーブルが整備されていることや元年度に学校内のパソコン環境を整備したことが評価を上げたと分析しています。教育の情報化に対し、指導者のICT活用の授業づくりを更に進め、必要であれば外部からの指導者も検討します。



総務民教建設常任委員会

所管事務調査最終報告「住民と築く防災について」

(1) 自主防災組織の設立と、町民の防災意識の高揚をはかる

自主防災組織を支えるのは、町民ひとりひとりの防災意識です。自主防災組織が行政の支援を受けて種々の活動や訓練を繰り返すなかで、町民個々の「自助」に対する意識を高めて行くことを望みます。

(2) 自主防災組織には、行政の「公助」を補完する機能を持たせる

自主防災組織には、行政からの情報を町民に周知する「情報伝達機能」、町民の安否確認と要支援者の避難を補助する「安否確認機能」、避難所開設時には感染症を考慮したゾーニングや給食・給水を担う「避難所運営機能」など行政が行き届かない部分を補完する機能を、日常の活動や訓練をとおして構築していくことを望みます。

(3) 防災活動の拠点を整備する

「自助・共助・公助」を学ぶことが出来て、災害時の行動指針を示した防災活動の拠点を整備する必要があると考えます。また、消防支署の併設が望ましく、車両の大型化に対応することや防災資材倉庫の一体化、演習と訓練場所の確保、ドクターヘリのヘリポートの整備を進めて行くことを望みます。

(4) 災害時における議会との業務継続計画（BCP）を明確にする

災害発生時に行政は、対策本部を設置し復旧のための案件を議会に諮ります。議会は迅速な意志決定と町民ニーズの反映が求められるため、議会機能の早期回復が必要となります。災害時の議会機能の低下を未然に防ぐことと、行政との意思疎通をスムーズにはかれる体制づくりを望みます。

自主防災組織には、災害時に町民と行政をつなぐ機能を持たせることが必要であり、即ち「自助・共助・公助」の考えを、お互いに意識した体制づくりが必要です。災害に強い町を築くためには、防災活動の拠点を整備し、町内会ごとに組織とリーダーを育成して行くことが求められます。次の意見を付し調査報告とします。

所管事務調査中間報告「地球環境対策について」

(1) 地球環境対策への取り組み

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体実行計画を策定し、「2050年温室効果ガス（二酸化炭素）実質排出ゼロ」を目指す、ゼロカーボンシティの宣言を望みます。

(2) SDGsと連携するために

既にSDGsのマークは多くの商品や名刺にいたるまで印刷されています。沼田町は雪を資源に活用しているので、SDGsに該当する事例を何処よりも先行している認識を高め、町が持っている強みを活かすことは重要です。

沼田町が培ってきた雪氷エネルギー技術が地球環境対策に資することを意識しながら、SDGsのターゲットに結びつけて明示することを望みます。

(3) 地域社会での意識向上

沼田町の地球環境対策における民間企業などへの積極的なアプローチが付加価値を高め、投資や人材を呼ぶ活力につながると考えます。

環境問題に対する意識の転換を図り、子どもの頃から環境教育をおこない、郷土教育・地域への愛着を促すことも重要で、意識向上に向けた方策の検討を望みます。

SDGsとは

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称で、国連で採択されています。

国は、「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と宣言しました。沼田町の歴史とエネルギー政策は密接に関連しており、炭鉱で栄えた時代が脱石炭社会によって急激な人口減をもたらし、雪氷エネルギーにおける先駆的役割が我が町の特徴です。以上、次の意見を付し中間報告とします。

産業福祉常任委員会

JR北海道が留萌本線の廃止・バス転換を進めようとしていることに対して反対の意志を示すため、意見書を国に向けて提出しました。その要旨は次の通りです。

JR北海道「留萌本線」の存続と財源支援を求める意見書

JR北海道が留萌本線を廃止対象線区に含めたことにより、町民の間に強い危機感が生まれまし

た。沿線自治体がJR北海道と協議を進めた中で提示された地元負担はあまりにも高額であり、廃線を前提とした姿勢からは北海道の鉄路を守る責務が感じられません。

鉄道は沼田町民にとって必要不可欠な公共交通機関であることから、以下の3点を国に対して求めるものです。

1 留萌本線の部分存続

深川～石狩沼田間では輸送密度の基準を上回ることから、部分存続をJR北海道に働きかけること。

2 JR北海道の経営再建に向けた支援策の見直し

国からの財源支援をローカル線にも行き渡るように働きかけ、支援策の抜本的見直しを図ること。

3 地域の実情を踏まえた支援制度の整備

地域の意見を踏まえて十分な地方財政措置を講ずること。



JRを利用して通学する高校生たち

議会改革特別委員会中間報告

沼田町議会改革特別委員会では、これまで2年間「町民とつながる議会」をスロガンに、開かれた魅力ある議会をめざして改革に取り組んできました。

この度、改革に上げた項目の一部について検証を行ったので報告します。今後はすべての項目を整理した後、改めて「議会基本条例」について議論を進めていきます。

1 議会の運営

議会傍聴席の定員と制限の解消のため、庁舎内にテレビモニターを設置して議会を中継し、分散傍聴できる環境が必要です。議場内にも大型モニターを設置し、一般質問に関する資料を映してわかりやすく説明する工夫も有効です。

昼間の仕事で傍聴できない方に向けての「ナイター議会」の継続や、親子で議会に関心を持ってもらうために「子ども議会」も検討

します。

10名の町民を議会モニターに委嘱し、議会を身近に感じてもらえるよう意見交換を行っています。また、2名の学識経験者を議会サポーターに委嘱し、議会活性化に向け提言を受けます。

2 町民に開かれた議会

定例会のネット中継、録画配信や会議録の公表、SNSを活用した情報発信は全国的な広がりを見せています。議会の動向を町民に周知し共有する上で今後必要です。

タブレット端末の導入は、情報の一元化と議員の政策形成や町民への情報伝達に有効であり、ペーパーレス化にも寄与します。今後はICT推進計画を策定し、さらに議会の透明化や効率



2/27 総務民教建設常任委員会による町民フォーラム

化を進めます。

議会懇話会など、広く町民との意見交換の機会を作るよう進めていきます。

3 議会の体制

議員定数や報酬、現在2つある常任委員会のあり方については、まだ結論に至っていません。議会改革を進めるにつれ、会議や出役の機会が増えると予想されますが、民意を反映できる体制を構築し、次世代の議員のなり手に魅力ある議会の姿を示すことが重要と考えます。

委員会

3月12日~17日



一般会計 49億1000万円
特別会計 18億3604万円
総額 67億4604万円

3月11日に第1回定例会が開会し、令和3年度予算案が提出されました。

条例案、予算案が、予算等審査特別委員会に付託され、4日間にわたる審議を行いました。

総務財政課からの「地方財政対策のポイント」の説明後、各課の説明を受けて、質疑を行いました。最終日に総括質問を行い審議の結果、条例3件、予算案9件に、意見を付託して可決することを報告しました。

総括質問

ほたる館とほろしんの再生計画は



ほたる館の改修費用は老朽化などに充てられていた。今後は、体育館、遊具も含め、魅力のある集客力を上げる改修をすべきだ。なぜ、ほろしんなのか、根拠となる成長戦略、たとえば「ローカル

5G」誘致ぐらいの決め手が欲しい。

「選択と集中」の戦略からすれば、ほろしんの森とほたる館は、両立するの分散させてしまわないか。

ほたる館の回収や運営は、シダックスの意見も聞いて判断していく。

「ほたるの里」は、大事な財産だ。情報通信網の整備など、いかにしてワークショップスペースを磨き輝かせるか。イメージとして国立・道立公園を視野に、フィールド「自然学校」に着手している。将来にわたって進めていけるよう調整していく。

ほたる館とほろしんの森



自然学校設立に向けての勉強会

の再生計画の相乗効果を期待している。環境づくりを進めていきたい。

JRR留萌線応援事業は



駅に集まり、愛着を持つてもらうだけではなく、JRRが示す輸送密度「二百人以上」をコントロールし、交流から関係人口を創る政策が必要ではないか。

日々、駅に出入りする環境を創っていききたい。新たな取り組みとして、北海学園大学との提携事業で、駅に關係する環境を創り、交流人口拡大やJRR通学保護者の皆さんからの要望を伝えていくことを考え、二百人以上を守り、乗車率を上げたい。

沼田つ子夢応援事業とコミュニティスクールは



一貫・連携教育の第三期3年目として、あいさつ運動だけで

はなく、教育委員会の描くコミュニティスクールの姿とは何か。

教育長 学校が困っていることは何か、学校運営協議会との協議を尊重しながら進めていく。第四期の在り方についても検討して行く。

スキー場改修について



スキー場の持つ観光の側面をどう考えているか。管理者は教育委員会、設置者は沼田町だ。関係人口拡大も期待できる。産業創出課、建設課とも協議させ基本構想を練り上げて、基本設計に入るべきだがどうか。

夏場も利用できる体験フィールドなどの環境を考え、調整し、説明の上対処する。



更新されるリフト

令和3年度 予算等審査特別



委員長 大沼 恒雄
副委員長 伊藤 淳

◆ 予算審査の結果 ◆

沼田町の社会・経済活動の発展には、人口3,000人を維持することが不可欠です。関係人口を軸とした移住定住政策の重要度は一段と増しており、各課の意思疎通と連携による事業展開が重要です。

以上、本委員会に付託された条例案3件と予算案9件につき、次の意見を付して原案どおり決定するものとして報告します。

(1) 安定した財政運営に向けた基金の確保について

ふるさとづくり基金として3億円を予算計上していますが、近年は寄付額の目標に達していないため基金全体が減少しています。今後は、公共施設のあり方で示した大型の施設投資も控えていることから、現状分析と対応を行い安定した財政運営に向けた取り組みを望みます。

(2) 将来ビジョンと公共施設計画について

沼田町公共施設等総合管理計画の見直しによる策定にあたっては、各施設の維持管理費並びに重要性や利便性の精査を基に、ほたる館の改修、町民体育館、点在する郷土資料の将来像を具体化させることが必要です。施設設計や運用の方向性をコンサルタント業者へ外部委託とする事業にあたっては、本町の特性や町民の意見を反映することを望みます。

(3) 小学校の環境改善と避難所機能の両立について

小学校におけるエコスクールの推進はもとより、SDGsに考慮した教育も必要と考えます。また、小学校は避難所として指定されており、避難者への熱中症対策として、現在の太陽光パネルを増強し、災害時における電源とエアコンなどの空調設備を確保することを望みます。

(4) ぬまたアグリファームについて

本町の持続可能な農業の担い手確保として重要な施策ですが、新規就農者へ魅力ある農業経営の提案や地域との調和が図れる取り組みが必要です。農業者への所得確保対策も更に充実し、後継者が就農しやすい環境を両輪として、関係組織と一体となり進めることを望みます。

新たな太陽光の活用は



現状のバッテリーを交換する予算

難者の暑さ対策の電力に活用してはどうか。



久保議員
した上で、授業



伊藤議員
小学校の太陽

アグリファームについて



鶴野議員
で本気度は図れ



畑地議員
新規就農者が

の計上をしたが、再生可能エネルギーを学ぶという視点と避難所での活用も踏まえて、今後の検討としたい。



自己資金と本気度は関連性がある

るのか。また、既存の農業者とのバランスは保てるのか。
かもしれないが、より良い人材を精査し受け入れて就農できる環境にしたい。既存の農業者対策は充実していると考えているが、60歳以上で後継者のいない経営



答弁する町長

体が31戸あり、担い手の確保に力を入れていきたい。

議会事務局長が交代しました

長年お世話になりました浅野信行事務局長が、この度定年退職となりました。浅野局長は議会事務局長時代を含めて議会事務局経験が長く、議員からも頼りにされる存在でした。今後、再任用職員として引き続き、役場の総務財政課に勤務されるそうです。



代わって黒田美和課長が保健福祉課より異動となり、4月より着任しています。

金子幸保氏の任期満了に伴い、新たに中村保夫氏が代表監査委員に選任されました。中村氏は、平成27年まで町議会議員を3期12年間務められました。その経験を活かして、今後4年間月例出納検査や定期監査の業務に当たられます。



中村保夫氏を代表監査委員に選任

あとかぎ

今年の冬は過去最高を記録するほどの降雪がありました。3月以降は陽射しも強まり、一気に雪解けが進みました。春の到来と共に農作業も本格化しています。ここ数年は水稲の豊作続きで、今年も期待が高まりますが、昨年来の新型コロナウイルスの影響で米の需要が減り、飼料米に転換されることが心配です。

もうひとつ心配なのが東京オリンピック・パラリンピックの開催です。無事に開催となり、札幌のマラソンコースに沼田町の雪中桜が華を添えることを望みます。

みんなの広場

議会モニターを振り返って



さとう まつお
議会モニター 佐藤 松雄

私は、20年間、議会の傍聴をして来ました。今年度の議会は、各議員が活発な議論を展開し、沼田町議会の新たな歴史を飾る素晴らしい内容になったと感じています。

また、「議会改革特別委員会」の活動として、芽室町、浦幌町、栗山町などの議会改革先進地を視察したことも前向きな取り組みだったと思います。

9月には、ナイター議会を開催し、ふだん傍聴できない町民も参加できたことも大ヒットでした。

12月には、全議員参加の「定数・報酬問題とその『本質』を考える」講師：龍谷大学教授 土山希美枝氏（沼田町議会サポーター）とのオンラインセミナーが行われました。私も京都の講師と全国各地の議員がつながる最先端の勉強会を視聴することができ、コロナ時代ならではの先進性を感じました。

私の要望としては、「全町民と議会との意見交換会」の開催を最優先課題にさせていただきたいと考えています。

議員の皆さんの努力が、「町民とつながる議会」として実を結ぶことをご祈念いたします。



高齢者元気100倍！教室
また笑顔で集えるよう、元気を取り戻しましょう
(写真はコロナ禍以前に撮影したものです)

広報特別委員

長野時敏 篠原 暁
上野敏夫 畑地 誉
伊藤 淳